

事業者向け

放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			・園庭には芝生を植え、土山も大きくし、以前よりも園庭で活動しやすい環境となった。 ・室内は扉で3つの部屋に分けることができる。利用者の様子に合わせて個別スペースを作り、対応できるようにしている。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			・10人の利用者に対して、管理者と児発管以外の直接処遇職員を4人配置しており、職員の配置基準を満たしている。 ・限られた職員の中で、個別支援が必要な利用者も含め、安全を守るだけでなく、ひとりひとりの利用者の願いに応える療育を行うには、職員同士の連携と工夫が更に必要である。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		・安全に配慮し、バリアフリー化をしているところと、必要に応じた段差を積極的に利用し、子どもの危機管理能力の向上につなげているところと、両方を大切にしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか		○		・週に1回の事業所内会議、毎月1~2回の法人内会議にて、必要に応じて業務改善についての話し合いの場を設けている。 ・職員一人一人が意識できるように働きかけていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			・年に1回、自己評価表のアンケートを行い、アンケート内容について職員で話し合い、改善策を導き出している。その結果を、ホームページで公開している。 ・自己評価とは別に、文章で記入していただくアンケートもを行い、保護者の意向を知ることができている。 ・みんなが意見を出しやすい工夫がこれからも必要である。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			・外部評価は、昨年度実施。評価結果として指導を受けた点については、改善しつつある。今年度は行っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか		○		・新型コロナウイルス感染症対策で研修機会が減り、研修参加が難しかった。後半になり、Zoomでの研修に参加できるようになった。 ・外部講師を招き、事業所内研修を行った。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			1年に一度アセスメントを行い、利用者や保護者のニーズを共有し、支援計画作成につなげている。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			・事業所内で統一したアセスメントツールを使用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			・週に1回の会議の中で、活動プログラムの内容を職員間で共有し検討している。また、活動後には振り返りを行い、次の活動に活かせるようにしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			・季節ごとに伝統行事を取り入れた活動を工夫している。また、季節に合わせた自然体験を取り入れ、利用者それぞれの発達に合わせた配慮をしながら、さまざまな体験ができるようにしている。 ・その年の利用者の様子や趣向に合わせて、活動を新たに計画するなど、できるだけ柔軟に対応している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			・学校休業日には、サービス提供時間を拡大し、午前中の活動が保障できるようにしている。 ・長期休暇には、普段できないお祭り活動や食事作り、自然体験などを企画して行っている。
14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			・恵の実っ子クラブ(学童クラブ)との統合保育を活かし集団的活動を行うところと、個別活動による個の充実、また少人数活動など、利用者の発達等の状況に合わせてそれらを組み合わせ支援計画を作成している。 ・どちらかに偏りすぎないように、定期的に見直しをしながら進める必要がある。	

事業者向け

放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			・支援開始前には、その日の活動内容や配慮が必要な利用者の確認、職員の役割分担など打ち合わせを行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○		・支援終了後は、保護者対応等で職員全員が集まりにくく、細かな支援の振り返りの共有まではその日のうちに行いにくい。翌日等の支援が始まる前までに、共有ができるようにしている。その日のうちに共有すべきことは、メール等を使用し職員間で共有することもある。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		○		・その日の支援の内容や利用者の様子を記録に残している。記録をもとに、支援の検証や改善、子どもの発達を検証する材料としたい。しかし、職員全員が記録を活かしていないところもあり、今後スキルアップが必要である。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			・半年に1回以上モニタリングを行い、職員間で検討をし合い、支援計画の見直しを行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	○			・ガイドラインの基本活動を組み合わせたものになっている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			・コロナ禍の為、会議の回数は減ってしまったが、担当者会議がある際には、主に児童発達支援管理責任者が出席し、情報の共有を行っている。必要に応じて利用者に関わるその他の職員も参加できるようにしている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			・送迎時に担任の先生と話をするほか、電話やFAX、学校訪問等により、学校側と情報共有をしながら、利用者の支援につなげてきた。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか				・体制が整っていない為、医療的ケアが必要な子どもの受け入れはしていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			・担当していた職員より利用者や保護者の様子等の情報を引き継ぎ、円滑な移行ができるよう努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか				・これまで対象となる児童がいない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○		・利用者の通院している病院と連携を取り、助言を受け療育に活かしている。豊川市内に児童発達支援センターがないこともあり、センターとの連携は行っていない。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			・同法人内にある、恵の実っ子クラブ(学童クラブ)の子ども達と統合保育を行っており、日常的に障がいのない子どもと活動する機会がある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか			○	・今年度より、豊川市の放課後等デイサービス共有会議に参加するようになったが、コロナ禍のため、会議自体の開催がほとんどなかった。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			・日頃の利用者の様子を、映像なども使ってできる限り分かりやすく、保護者に伝えるようにしている。 ・やりとりノートを利用して情報共有している家庭もある。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			○	・面談時に、家庭での対応方法を助言したり、母子通園をしてもらい、子どもと直接関わる中で子どもとの関わり方や子どもの理解の仕方を伝えている。 ・今後、保護者ひとりひとりに適したペアレント・トレーニングを分析し、計画的に実施していく事が課題である。

事業者向け

放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか		○		・契約時に書面と口頭で行っているが、年度の切り替えの際には、再度丁寧な説明をすることが必要である。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			・保護者からの相談にはできる限り迅速に対応し、助言できるようにしている。また、職員からも声をかけ、保護者の悩みに気づいていけるよう留意している。 ・茶話会を定期的に行い、保護者が悩みを出しやすい機会を作ってきた。 ? 今後も保護者がより悩みを相談しやすい工夫が必要である。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○		・発達や悩みに合わせて小グループでの茶話会を定期的実施してきた。 ・コロナ禍であり、例年行っている親の会や学習会などが開催されにくく、保護者同士がつながり合う機会が少なかった。
非常時等の対応	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			・契約時に、相談・苦情受付窓口や担当者、第三者委員の設置などの情報を伝えている。相談や申し入れがあった場合、できるだけ速やかに職員間で話し合いの場を持ち、改善につなげるよう心がけている。 ・苦情となる前の、保護者の意見のひとつひとつを真摯に受け止め、職員間で共有、検討することを大切にしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			・月に1回お便りを発行し、活動概要等の情報共有をしている。 ・活動ごとに活動概要や活動のねらい、活動後の報告などをお便りにして伝えている。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策で活動が縮小したため、お便りの発行が少なかった。
	35	個人情報に十分注意しているか	○			・書類は、鍵のかかる書棚で管理している。職員は、年度初めに守秘義務や書類の管理の仕方について周知をしている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			・子どもとの意思疎通については、利用者それぞれに合わせて伝え方の工夫をしたり、視覚的な手立てを利用するなど配慮している。 ・保護者への情報伝達については、口頭だけでなく書面で伝えたり、必要に応じて個別で丁寧に対応するようにしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		・毎年、法人として夏祭りを行い、地域住民の方を招待しているが、今年度はコロナ禍のため、行事自体の実施が難しかった。 ・地域の環境整備(コスモスの苗植え、草取り)に職員と利用者、保護者と一緒に参加し、地域の方との交流を行った。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか			○	・各マニュアルを策定はしているが、内容に未だ不十分などところがある。今後、必要なマニュアルについて、実働に合わせて見直し、検討を行う。また、マニュアルの周知が徹底されていないところもある。保護者、職員それぞれ、改めて周知する機会を設ける。
39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			・定期的に避難訓練を実施している。事業所のみでなく、法人全体での訓練も行い、事業所間どうしてどう連携を取っていくのか等についても検討しあっている。	
40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか		○		・管理者や児発管より虐待防止に関する情報提供を行っている。今年度は、直接保育にたずさわる職員が虐待防止の研修に参加できるよう計画をしていたが、コロナ禍もあり研修への参加が難しかった。	
41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			・身体拘束になりうる可能性がある場合は、保護者への確認や説明を行い、支援計画に記載するようにしている。	
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか				・現在は食物アレルギーの子はいない。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			・ヒヤリハットがあった際は、すぐに関係職員、管理者、児発管で検証と再発防止について話し合う対策会議を行っている。また、その内容を記録し、職員間でも共有するようにしている。職員会議等で、再度情報共有する場をもち、再発防止に努めている。 ・ヒヤリハットの件数が少ない。大きな事故につながらないよう、ヒヤリハットの段階で職員が情報共有していくことの必要性を確認しあっている。	